

第48回金沢大学宝生会

狂 能

主な演目

言

羽衣
佐渡狐

能楽発表会

H O S H O R Y U

日時

2020年 2/22 [土]

12:30開場 13:00開演

入場料 無料

石川県立能楽堂

TEL. 076-264-2598

主催 金沢大学宝生会

後援 北國新聞社 / テレビ金沢 /
エフエム石川 / 金沢ケーブルテレビネット

能

狂言

羽衣
佐渡狐

連調

狸々

仕舞

鶴高加胡
亀砂茂蝶

舞囃子

西王母
花月

素謡

小鍛冶

番外仕舞

三輪
俊成忠度
阿漕

敷
高橋憲正
渡邊茂人
他



能・狂言 解説

羽衣

ある春の朝、駿河国三保松原で漁師の白龍ら(ワキ・ウキツシ)は松の枝にかかった美しい衣を見つけ、持ち帰って家宝にしようと思いました。そこへ天女(シテ)があらわれ、その衣は天の羽衣であり、それがなければ天へ帰ることができないので返してほしいと嘆き悲しみます。白龍はその姿に心を動かされ、衣を返す代わりに天女の舞を舞ってほしいと頼みます。天女は喜んで舞い、三保松原の景色と国家の繁栄を称え地上に多くの宝物を降らせながら、富士の高嶺よりもさらに高い、天空の霞の中へと姿を消していきました。

佐渡狐

毎年の嘉例として年貢を納めに上洛する、越後と佐渡の百姓が二人。道中、佐渡に狐がいるかいないかを論じ合い、腰の刀を賭け判断を都の奏者に頼みます。狐はいると主張するものの、狐を知らない佐渡の百姓は賄賂を贈り、狐の特徴を奏者に教えてもらいます。そして越後の百姓の問いに何とか答え、勝ちということとなります。しかし合点がいかない越後の百姓に狐の鳴き声を問われ、「月星日」と答えてしまい、それは驚の声だと刀を取り上げられてしまいます。入れ知恵をさとした越後の百姓が両手を広げ佐渡の百姓と奏者との間へ入り、佐渡の百姓が狼狽する場面が見どころです。

石川県立能楽堂

本館 〒920-0935 金沢市石引4丁目18番3号
TEL:076-264-2598 FAX:076-264-2598

■アクセス

バス: JR金沢駅西口から北陸鉄道バス「4番5番乗り場」
小立野方面行きで約20分、
出羽町または成異閣前下車すぐ
兼六園シャトルバス(土・日・祝のみ 100円)
金沢駅東口6番のりば→成異閣前下車



†宝生会って?†

金沢大学宝生会は、金沢大学にある能楽サークルです。我々が宝生会では「能」だけでなく「狂言」も行っております。「加賀宝生」の呼び名が示す通り、金沢は昔から能楽が盛んな土地で、兼六園近くには石川県立能楽堂もあり、金沢能楽会の定例会などが催されます。このような恵まれた環境で、しかも一流の先生方にお稽古していただける我々は、果報者集団と言ってもよいでしょう。活動は基本的に週2回、

◆水曜日 16:00~ ◆土曜日 13:00~

いずれも大学会館1階の和室で行っております。興味のある方は、ゼヒゼヒHPに遊びに来てください♪

◆E-mail: kindaihoshou@gmail.com

◆ホームページ http://kanazawahoshou.web.fc2.com/